

群馬県高崎市に本社がある藤間精練(藤間一夫社長)は、平成19年に創業100年を迎えた。藤間社長は4代目の社長となる。カチオン電着塗

装、無電解ニッケルめっき、PTE複合めっき「レゾナコート」、高耐食性カチオン電着コーティング「ハイプラコート」を事業としている。もともと同社は染色業であり、明治40年の創業時には木綿伴天などの染色を、昭和23年に法人化してからは裏絹精練を行っていた。新たな事業として、カチオン電着塗装をスタートさせたのが平成元年。染色工場が上越新幹線の建設のため、道を隔てた現在の敷地に移転することになったことと、隣接している自動車部品を手がけるめっき加工会社から誘いを受け、加工作業から誘いを受け、練と塗装・めっきに共通している水処理設備を有していたことも挙げられる。平成5年に無電解ニッケルめっきを開始し、平成15年には裏絹精練から撤退して、金属表面処理事業に特化を図った。新たな事業として、カチオン電着塗装をスタートさせたのが平成元年。染色工場が上越新幹線の建設のため、道を隔てた現在の敷地に移転することになったことと、隣接している自動車部品を手がけるめっき加工会社から誘いを受け、加工作業から誘いを受け、練と塗装・めっきに共通している水処理設備を有していたことも挙げられる。平成5年に無電解ニッケルめっきを開始し、平成15年には裏絹精練から撤退して、金属表面処理事業に特化を図った。

藤間精練

# 独自の金属表面処理行っ

## 個人向けネットビジネスも

ふつ素樹脂系被膜の特性である非濡性(撥水性、非粘着性)、自己潤滑性(低摩擦性)、耐腐食性(耐薬品)といった特性を發揮。さらに薄膜化、膜の均一性(±10%)、耐熱温度(約260℃)、膜表面硬度(HV400)以上、導電性、熱伝導、耐摩耗性、母材との密着性など優れた特性を持つ。対応寸法はL2100mm×W1200mm×H850mm、L1200mm×W500mm×H500mm。重量については250kg程度まで対応可能

で、また全自動処理ラインの導入により安定した品質を低コストで提供できるとのことだ。レゾナコートにはNTTYPEも用意されている。これは無電解めっき技術をベースにしており、STTYPEとは異なりPTEを含まず、耐熱性と硬度に優れ、また硫黄フリーなので優れた耐食性を發揮する。NTTYPEに加え、鉛やその他の有害重金属を一切使用しない環境重視型のNTTYPE IIもある。

最大処理サイズはL2200mm×H800mm×W800mm、最大処理重量は約250kg。「ハイプラコート(HI PRACOAT)」は、通常のカチオン電着

塗装では下地処理前にリン酸亜鉛被膜処理を施すのが一般的であるのを、下地前処理にめっきを施し、エポキシ樹脂により二重コーティングしたものの。従来のカチオン電着塗装の耐食性、耐衝撃性、膜の均一性、高付着率、低コストといった長所の半面、膜が柔らかく引っかけ傷で済まなく母材が腐食してしまう問題点を改善した。

こうした独自技術開発が評価され、平成17年に群馬県の「1社1技術」に選定され、翌年にはその中から特に優れた技術力を表彰する「中川威雄技術奨励賞」を受賞。その他同年には群馬県企業パートナー精度指定の選定を受け、昨年は高崎市優良企業表彰を受賞、群馬県環境GS事業者にも認定されている。

同社の地元・高崎の景況は「他聞に漏れず良くなく、量的には昨年の半分以下だ」という。群馬県内にはいくつもの大手企業の工場があり、そうしたところからの仕事は減少しているが、県内の業者は潰れていないとか。不況によって企業活動のあらゆる部分が見直されてきており、発注元と施工業者のこれまでの「ななめ関係が崩壊した。以前は取引業者以外の新規業者は受け入れてくれなかったのが、入り込んでいける機会ができた」とのこと。まさにピンチはチャンスである。一方で、長い付き合いであるから、仲間も大切にしたいとする。現に、仕事のアウトソーシングなど仲間内で仕事を回している体制を作っている。今後は、レゾナコートのニーズ掘り起こしを図っていく。もともと半導体関係でスタートしたもの、今は止まってしまっており、その回復を待っているわけにはいかない

崩壊を教訓にして、1社に仕事を依存しない体制を整えたためようだ。現在、シリコン関係の金型で注目されているという。もう一つ、同社の特徴を挙げると、個人向けの事業も手がけていることだ。「メック主援助」と名付けられたこれは、個人依頼専用のめっき処理加工のサイトである。インターネットを利用してネット一本、ネット1個、部材1つからでもめっき処理を受け付けている。所有している貴重な思い出しの品が古くなり、表面の劣化に困っている人に、きれいに再生しますというサービスだ。スタートして1カ月半で3件の注文がきたとか。シフトレバーや腕時計の尾錠などオートバイや時計のレストア・ニスである。インターネット・ビジネスではスピード・親切・いいねいが求められる。同サイトでは工程や進捗状況を細かく説明、個人客の不安や悩みに対応している。藤間社長は、このネット・ビジネスを売り上げの1〜2割を占めるようにしたいという考えだ。